

平成30年度 学校経営方針

浜松市立与進中学校

1. 校訓 自由 責任

- 他人に迷惑をかけなければ、人は基本的に自由であるべきです。しかし、「自由」とは、何でも好き勝手なことをしてもよいということではありません。自分勝手な行動は、「自由」の意味をはき違えた「わがまま」以外の何ものでもありません。
- 「自由」には「責任」が伴います。そして、人の言動には必ず「責任」が伴います。多く人は「自由」はほしいけど「責任」は背負いたくないと思っています。そのような人は、不自由のままです。ある部分で「責任」を背負うからこそ、「自由」が手に入るのです。
- 自分の言動に「責任」をもつ姿勢のある生徒を育成する。
それが「自由」への道です。
- 自分の言動に「責任」をもつことのでき、正しい判断力と価値観に基づいた「自分らしさ」をその成長に応じて築かせることで、自立できる生徒を育成する。
- 自分のことは、自分でやり遂げる責任と自らを律して他と協調していくことができる生徒を育成する。

2. 学校教育目標

共に自立をめざす生徒

～見つめ・高め合い・認め合う～

平成30年度からの新たな目標

- 「共に」とは・・・
 - ・仲間とのかかわりを大切にして、仲間のことを理解し、思いやり、尊重して、学級、学年、学校、地域の人達の協力を得ながら、共に「高め合う」ことができること。仲間との「かかわり」なしで「自立」はありえない。
 - ・自分の現状をしっかりと「見つめ」、自分に適切な目標を立て「成功体験」を積み重ねることや自分達のよさを共に「認め合う」こと。
 - ・互いに「認め合う」温かさを感じるためには、人を思いやる言葉「愛語」が何よりも大切である。「愛語が響き合う学校」であること。
 - ・「与進」という言葉の由来は、中国の古典「論語」から引用したもので、「共に進む」「共に前進する」という意味がある。
- 「自立をめざす生徒」とは・・・
 - ・「自立」＝「志」「夢」「希望」をもって生きること。
 - ・「自立をめざす」＝「志」「夢」「希望」に向かって「努力」「挑戦」し、「自分らしい生き方」を求め続けること。
 - ・「夢や希望」「志」をもち、「努力」「挑戦」することは、人を育てる、人が育つ最大の原動力である。
 - ・「自分らしい生き方」とは、「自分のことは自分でやり遂げる責任」と「自らを律し、他と協調していく義務」の精神をもって生きていくこと。他者との比較ではなく「自分のよさや成長を実感し、自分の可能性を求める主体的な生き方」である。
 - ・「求め続ける」とは、「自分の夢や可能性を信じて、たくましく生きていくこと」

このような生き方を「志」「夢」「希望」をもって生きる「自立」した姿であると考え

○「見つめ・高め合い・認め合う」ためのマネジメント・サイクル

R-P-D1-C-A-D2-S

見つめ・・・(R) Research (状況・課題の把握)

高め合う・・・(P) Plan (計画・立案)
(D1) Do (実行)

(見つめ) (C) Check (振り返り・評価・状況把握・成果と課題確認)
(A) ActiOn (改善・教育活動の見直し)

認め合う・・・(D2) Develop (発展)
(S) Share (共有・認める)

3. 学校教育目標達成のためのキーワード

信頼・貢献・感謝

凡事徹底

- 仲間を信頼し、仲間から信頼される人に！
- 誰かのために、集団のために貢献できる人に！
- 常に相手の立場に立って行動でき、まわりに感謝の気持ちをもてる人に！
- あたりまえのことを徹底して続けることができる人に！

4. 学校経営目標

**生徒を信頼し、生徒と共に創り上げる学校
信頼の絆でつなぐ チーム与進！**

- 生徒・保護者・地域・学校（教職員）が信頼の絆で繋がり、手を取り合い、一つになって、支え合い、高め合う学校とする。
- 共に学び続ける生徒、教師となることで、生徒同士、生徒と教師、教師同士の心が強くつながり、「より深い学び」を「共に創り上げる」学校とする。

5. 目指す学校の姿

**(1) 誇りを胸に未来に向かって常に前進し続ける学校
(2) 「愛語」が響き合う学校**

- 生徒が誇れる学校
- 未来の夢や目標に向かって全力で取り組むことができる学校
- 現状に満足することなく、常に前進し続ける学校
- 人を大切にする言葉、人を思いやる言葉「愛語」が響き合う学校

6. 目指す生徒の姿

**(1) 夢や希望に向かって努力・挑戦する生徒
(2) 人から信頼され、思いやりと感謝の心をもった生徒
(3) 学校・学級・地域に貢献できる生徒
(4) 自分の成長を実感し、可能性を伸ばせる生徒
(5) ここ一番で底力を発揮できる生徒**

【中学校区の目指す子供の姿】

- 自信をもってともに進む長上の子

【浜松市の目指す子供の姿】

- 夢と希望を持ち続ける子供
- これからの社会を生き抜くための資質や能力を育む子供
- 自分らしさを大切にする子供

7. 目指す教師の姿

- (1) 教育への情熱と使命感をもった教師
- (2) 子どもの心に寄り添い、愛情を注ぐことができる教師
- (3) 常に学び続け専門性・指導力を高めることができる教師

8. 学校運営の重点

(1) 「常に前進し続ける与進中学校」

平成30年度の与進中学校は、学習・生徒指導・特別活動・部活動等のあらゆる面で、今の現状に満足することなく「常に前進し続ける与進中学校」を目指して努力していきたい。

(2) 信頼の絆でつなぐ学校づくり

○与進中学校が生徒一人一人の夢や希望を実現できる、よりよい学校になるためには、まずは教職員の皆さんが幸せであり、意欲にあふれ、お互いを信頼すること。そして、教職員全員が一つの方向に向いて、チームとして組織で進んでいくこと。私は、教職員の皆さんを信頼します。

○「生徒に信頼される教師」「保護者に信頼される教育」「地域に信頼される学校」を目指して教育活動を展開していく。教育活動は「信頼関係」の上に成り立っている。まずは「生徒を信頼し、かわいがること」「子供は褒めた方が、よく伸びる」「厳しさの中にもその子を大切に思う愛情があること」

(3) すべての教育活動の根底にあるのは「命の教育」である。

安心・安全な学校づくり。

- すべての教職員が「命」を意識した教育に取り組む、全教育活動を通して、すべての生徒に「命」を意識した言動を身につけさせたい。
思いやりの心の育成・いじめ、暴力ゼロの学校。
- 常に危機意識をもち、事故・危機の未然防止に努める。(リスクマネジメント)
- 起きてしまった事故・危機への迅速・適切な対応。初期対応の重要性。
再発防止対策。(クライシスマネジメント)



1つの重大な事故の前には、29の軽い事故があり、その前には、300のヒヤリハットがある。
重大事故の前に食い止めたい。

「学校は楽しい場所であって、決して悲しい場所にしてはならない。」

(4) キャリア教育の充実で「生きる力」を育む。

(自分の将来を思い描かせる。)

○自分は、将来どのような理想の姿になりたいのか。将来の夢や目標を思い描かせ、その実現のためには、今、何をすべきか、今をどのように生きるべきなのかを考えさせ、人としての土台を築くことのできる学校でありたい。

○キャリア教育推進のための重点

① 「子供たち一人一人を大切にする」

一人一人の子供たちを大切にし、見つめ、応じることで、その子の「成長したい」という思いを受け止め支援していく。

② 「子供たちと社会のつながりを大切にする」

社会の変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、社会の作り手となることを願い、社会とのつながりを実感できることを重視していく。

③ 「自分らしさを大切にされた教育の推進」

「なぜ学ぶのか」「なぜ働くのか」子供たちが大人になっていく過程で、学習や体験を通して自分らしい生き方を確立していくための手立てである。

※キャリア教育＝豊かで幸せになるための生き方教育(幸せな大人になるために)

(5) ここ一番で底力を発揮させるために！

- ①これだというものはないが、我々教職員が常に「ここ一番で底力を発揮できる生徒」にしたいという意識をもって本気で指導にあたること。
- ②毎日の生活・授業・部活動において、「凡事徹底」を貫く

「凡事徹底」とは

- 当たり前のことが当たり前でできる生徒する
- 当たり前のことを徹底して、続けて行うことができる生徒にする
- 当たり前のことを心から本気に一生懸命行うことのできる生徒にする

- ※当たり前ことを徹底して続けることで、平凡の中から生まれる非凡（平凡でなく、特に優れていること）が、大きな成果に結びつく。
- ※「凡事徹底」を貫くことで、「やればできる」と自信がもてる人間となる。
- ※「凡事徹底」を貫くことで、失敗に負けない、粘り強い人間になる。
- ※「凡事徹底」を貫くことで、常に高い目標に挑戦する人間になる。
- ※「凡事徹底」を貫くことで、謙虚な気持ちをもつ人間になる。

そういう人間に育てることが、「ここ一番で底力を発揮できる生徒」となる

与進中学校の凡事徹底「あたりまえ」10箇条

- 1 「思いやり、人の気持ちを考える」のは、あたりまえ
- 2 「あいさつは、自ら先にする」のが、あたりまえ
- 3 「授業は、真剣に取り組む」のが、あたりまえ
- 4 「人の話は、耳と目と心で聴く」のが、あたりまえ
- 5 「清掃は、黙働清掃」あたりまえ
- 6 「生活は、時間を守る」のが、あたりまえ
- 7 「身だしなみ しっかりと整える」のが、あたりまえ
- 8 「いじめ・暴力ゆるさない」のが、あたりまえ
- 9 「人に感謝の気持ちをもつ」のは、あたりまえ
- 10 「夢や目標に、全力で挑戦する」のは、あたりまえ

(6) 教育は「子供の未来づくり」の理念

教育は、意図的・計画的・継続的・組織的に働きかけることにより、生徒の望ましい変容を目指すこと、すなわち全ての教育活動の成果は生徒の変容にある。

私たち教職員は、教育を通して生徒の「未来づくり」をしている。一人一人を大切にしたい一人一人の教育的ニーズに応じる教育を展開することで、生徒一人一人の大切な未来を預かる職業であるという自覚をもって、日々の教育活動に取り組みたい。

【与進 10の具体的（数値）目標】

- ①学校教育目標「共に自立をめざす生徒」が言える生徒80%。
(学校教育目標を意識した生活ができる)
- ②自分から「笑顔であいさつ」ができる生徒90%
- ③正しい判断でけじめのある生活ができる生徒90%
(時を守り、場を清め、礼を正す生徒)
- ④思いやりと感謝の心をもって生活できる生徒90%
- ⑤授業に集中し、自分の可能性を伸ばすことができる生徒80%
- ⑥「感動ある行事」だと実感する生徒90%
- ⑦部活動に全力で取り組み、人として一歩前進できる生徒90%
- ⑧「ここ一番で底力を発揮できる生徒」90%
- ⑨学校の三悪（いじめ・暴力・授業妨害）ゼロの与進
- ⑩自分の成長を実感することができる生徒80%

★学校を元気にする、こんな職員集団でありたい。 そして、こんな指導でありたい。

- ①職員同士が、まずは、「元気なあいさつ」を交わしたい。
 - ・良好な人間関係を築くのは、生徒も職員も気持ちのよいあいさつからです。
- ②職員室の雰囲気明るく、職員の和を大切にしたい。
 - 信頼関係があり、笑い声のする職員室でありたい。
 - そして、指導方法や悩みを気軽に相談できる職員室であること。
 - ・困ったことは一人で悩まず、組織で取り組み、常に報告・連絡・相談・確認を忘れない。(横の連携・縦の連携)
 - チームや組織で対応することで、具体的な対策やアイデアが生まれる。
- ③先生方の個性を大切にしながらも、全職員が同じ方向を向いて、力を合わせて取り組むこと。職員の数が多ければ多いほど大切なこと。
 - ・教職員一人一人の持ち味・強味(年齢・性別・性格・教科・特技・趣味・得意とする指導方法)を充分発揮する。(自分の得意に帆を張れ！)
- ④自分たちは教育のプロであることを忘れず、常に教職員として資質向上に努めることが大切。
 - ・問題が起きた時に、生徒だけのせいせず、自分の指導方法や接し方等を振り返ることのできる教員でありたい。その姿勢が問題解決の糸口になる。
 - ・授業でその子の可能性を開き、伸ばすことが我々教師の仕事。そのためにも、授業力を高めることが大切。教師も生徒も充実感・達成感を味わうことで、学校が元気になる。
- ⑤生徒に対する指導の基本は、一人一人を大切に思うこと。
 - ・問題がある生徒こそ表面には見えない、影の部分をしっかり把握し、見捨てず、あきらめないでかわいがること。「心の声を聞く」
 - ・生徒を信じること。裏切られても、指導をして、また信じること。その繰り返しがいつか信頼の絆となることを信じて取り組むこと。
 - ・「ダメなものはダメと毅然とした態度で指導する場面もでてきますが、厳しい言葉や態度の中にも「おまえのことが大切だ」という愛情があること。
 - ・生徒に寄り添う指導をお願いします。

※生徒指導は、4Sセーフティー・スピーディー・スマイル・スキをつくらない
※「築城3年 落城3日」を忘れない。大胆にして、細心であれ。

- ⑥教師も生徒も「出会えて良かった」と言える1年でありたい。
 - ・この先生と この生徒と このクラスと出会えてよかった。

- ⑦不祥事根絶(体罰・飲酒酒気帯び運転・わいせつ行為・情報の流失等)

※「よい学校とは・」「問題のない学校ではなく、問題(課題)を子どもと教師と親の間で共有され、その解決に向けて様々な試みがされる学校である」(佐藤 学)

※進む先にある目的は「生徒一人一人の幸せ」のため、結果はすぐにはでないことも多いですが、「生徒の未来づくり」を応援することです。
1年間、よろしくをお願いします。

9. 具体的な取組

(1) 命の教育・心の耕しの推進（心を通わす生徒指導・教育相談の充実）

- ①常に生徒に寄り添い、心を通わす生徒指導
（生徒を信じ、かわいがる）（築城3年落城3日）
 - ・生徒を信じる。裏切られても、また信じる。その繰り返し。
 - ・生徒のがんばりを認める。認め褒める場の設定。
（子供は褒めた方が、よく伸びる）
 - ・できるだけ多くの生徒に声をかける。ボイスシャワーを組織で取り組む。
声をかけることで自己肯定感を高める。
- ②確かな子ども理解と信頼関係の構築
 - ・表面に表れるものだけでなく、内面や影にあるものを日々の関わりでつかみ信頼関係を築く。
- ③厳しさの中にも「温かさ」とその子どものことを真剣に思う愛情のある指導
- ④いじめ・暴力行為・授業妨害の撲滅（学校の三悪）
 - ・いじめ対策基本方針の策定といじめ対策委員会の設置
 - ・いじめに対する教師の力量の向上
SC→カウンセリング技能研修 問題行動いじめ事例研修
 - ・子どもが主体的、自主的にいじめについて考え、行動できる態度の育成
（年2回生徒会主催のいじめ撲滅の生徒集会等）集団の自浄作用の向上
 - ・地域ぐるみで「いじめ撲滅」に対応する体制づくり
（保護者・地域との連携を深め、多くの大人による見守り）
（いじめに関する内容を学校だよりやHPで発信し、関心をもってもらい
様子がおかしい場面を見た時は、学校にすぐに連絡してもらう）
- ⑤心をゆさぶる語りかけの積み上げ（短学活や学年集会・特別な語りかけ）
- ⑥教師と生徒が気軽に相談できる信頼関係づくり
 - ・教育相談週間の充実（実施時間の設定と相談方法の工夫・1、2学期で全員実施等）
 - ・SC、SSW専門家に相談できる体制
- ⑦不登校生徒の減少（新規の不登校生徒を出さない取組）
 - ・個々の状況、課題に応じた適切な支援、保護者との連携
- ⑧不登校生徒・若草教室登校生徒への対応
 - ・二日～三日連続で休めば、担任や担当学年の職員で連絡し家庭訪問。
 - ・若草教室登校の生徒もその時間の担当教諭に任せるだけでなく、5分でもいいので担任や学年職員が声をかける。
- ⑨小学校との連携強化
 - ・小中共通の生活のきまりや学習のきまりの設定。
- ⑩保護者や関係機関との連携
- ⑪3S セーフティ スピード スマイル + スキをつくらない
- ⑫「愛語」の響き合う学校に！

これからの社会を生き抜いていくためには、日本人が忘れかけている「人と人とのつながり、豊かな人間関係の構築」が必要である。そのためには、人を思いやる心、温かさを感じる心、そして、その心を表す言葉が大切になってくる。その言葉が愛のある言葉「愛語」であり、「愛語」の響き合う学校としたい。

それは、生徒と教師、生徒同士、教職員の間で、相手のことを思う言葉や認め、褒める言葉、さわやかなあいさつも愛語である。そして、生徒を指導する叱る言葉も「愛語」とする。

(2) 安心・安全な学校づくり（危機管理能力の向上）

「人が環境をつくり、環境が人をつくる」の言葉を意識して物的環境を整え、生徒が安心して学校生活を送れる環境を整備する。

- ①教育活動の充実、事故防止のため、学校施設の日常・定期の安全点検を「生徒の命を第一優先」という意識で行う。
- ②管理場所の清掃と整理整頓を心掛け、清潔な教育環境を築く。
- ③破損箇所の迅速な修繕を行う。
- ④防火設備の点検を確実にし、危機管理体制の充実を図る。
- ⑤危機管理マニュアルの作成と周知徹底（職員・生徒・保護者）
- ⑥避難訓練の工夫と充実（年5回 自分の命は自分で守る）
- ⑦危険を予想しての事前対策、リスクマネジメントを重視する。

- ⑧起きてしまった危機への迅速・適切な対応。初期対応の重要性。
再発防止対策。(クライシスマネジメント)
- ⑨原則、生徒の活動場所には、教師がいる。

(3) チーム与進としての組織の強化(学校運営体制の強化)

- ①学校経営方針・経営構想等を職員に周知徹底
分掌組織の業務内容の明確化、均等化
- ②教育活動、生徒指導、分掌業務等 報告・連絡・相談・確認の徹底
情報の共有 共通理解 共通実践 協働体制
- ③R・P・D1・C・A・D2・Sサイクルで
状況、課題の把握・計画・実行・検証・評価・改善、見直し・発展・認める
- ④「フットワーク」「チームワーク」「ネットワーク」の実践
- ⑤SC SSW ALT 支援員等との連携強化と有効な活用

(4) 教職員の資質能力の向上と授業の充実

- ①校内OJT体制の確立させ、学年・学級経営力、教科指導力、生徒指導力等を向上させ、「学び合い、高め合う学校」とすることで学校の活性化を図る。
 - ・学年会・教科部会で、中堅・ベテラン教員の指導技術、教育的財産の伝承
 - ・「授業力向上」ICTの活用・言語活動・アクティブラーニングを活用した授業改善等
 - ・授業公開、授業参観の実施—その後の反省会の実施・教師の授業力の向上
 - ・短学活(朝・帰りの会の工夫・充実)

- ・生徒指導事例研修・スクールカウンセラーによるカウンセリング研修・短学活(朝・帰りの会の工夫・充実)研修・学級経営の研修等も校内研修や夏休みの研修で実施

②わかる・できた・楽しい授業に向けた授業改善

- ・わかる楽しい授業の展開・・・生徒の学習意欲の向上 学習習慣の確立
- ・基礎基本が定着する授業の展開
- ・主体的、対話的な深い学び(AL)の視点での授業改善
- ・「はままつの教育」の4つの視点を生かした授業
 - 自分を見つめる
 - 創造「思考し、創り出す」
 - 協働「共に生み出す」
 - 自立「自ら決め、実践する」
- ※学ぶことが、日常生活や社会とつながる教育活動の展開が重要

◎新学習指導要領や特別な教科・道徳・総合的な学習の時間等の研修

③家庭学習の充実・家庭学習の手引きの活用

- ④授業規律の徹底
- ⑤全国学力学習状況調査の結果分析と指導への活用
- ⑥ICTの活用による効果的な授業
- ⑦課題のある生徒への補充学習の実施 上位生徒をさらに伸ばす発展学習
- ⑧幼小中のつながりを意識した授業実践
 - ・小中一貫カリキュラムを活用して年間指導計画の見直し
 - ・学習のきまりの共通項目の指導
 - ・教師の交流
- ⑨教育財産の共有化・・・指導案、教材教具、ワークシート等の保管と活用
- ⑩地域や外部からのゲストティーチャーによる本物体験を組み入れた授業の工夫。

学校生活の中心は、何と言っても授業である。子どもたちは、年間200日以上登校し、1000時間以上の授業を受ける。学校で過ごす大半は授業である。その授業が楽しくなく、わからない授業なら、学校が楽しくなくなってしまう。授業で子どもの可能性を開き、伸ばすことが教師の仕事。そのためにも、授業力を高めることが大切。

(5) **豊かな感性を育む、心に響く感動ある教育活動の推進** (本物体験を通しての人づくり)

- ①感動ある学校行事・体験活動への取組
- ②生徒が主体的に活動する生徒会活動の推進
- ③青春の情熱を燃やす部活動の活性化
- ④幼・小・中の行事や生徒会活動の合同実施と交流
- ⑤行事や部活動で得たことを日常生活の中で生かせる指導
(学校の教育活動は、点ではなく線につながっていないと本物ではない。)

(6) **キャリア教育・進路指導の推進**

- ①特別活動と総合的な学習の時間、道徳の時間の計画的な実践を通して、各教科のキャリア教育の意義を踏まえ、(何のためにこの教科を学ぶのか、この教科は、将来どのように役立つのか) 学校教育活動全体でキャリア教育の充実を図り「生きる力」を育む。
- ②「**子供たち一人一人を大切に**する」
一人一人の子供たちを大切に、見つめ、応じることで、その子の「成長したい」という思いを受け止め支援していく。
「**子供たちと社会のつながりを大切に**する」
社会の変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、社会の作り手となることを願い、社会とのつながりを実感できることを重視していく。
「**自分らしさを大切に**した教育の推進」
「なぜ学ぶのか」「なぜ働くのか」子供たちが大人になっていく過程で、学習や体験を通して自分らしい生き方を確立していくための手立てである。

※キャリア教育＝豊かで幸せになるための生き方教育(幸せな大人になるために)

- ③生徒理解に基づく3年間の計画的進路指導を充実させ、生徒一人一人の夢に挑戦する意欲を高める。

(7) **健康・体力の増進と体育活動の推進**

- ①運動の合理的な実践を通して、運動に親しむ資質・能力を育て、体力の向上を図る体育授業を展開する。
- ②食育の推進と給食指導の充実
 - ・朝食摂取率の向上
 - ・望ましいバランスのよい食習慣の確立
- ◎アレルギー生徒への確実な対応
- ③疾病治療率100%達成(虫歯・眼科等)

(8) **地域との連携、信頼される開かれた学校づくりの推進** (市民協働による人づくり)

- ①学校の取組、生徒や職員のがんばっている姿を学校だより、HPに掲載して発信する。また、保護者会や各行事に来校してもらい「見える化」を図り、学校の取組を理解してもらう。
- ②学校評価に保護者、学校評議員に参加してもらい、その結果を学校だより、HPに掲載し、PDCAサイクルを用いて改善発展させていく。
(カリキュラム・マネジメント)
- ③地域の行事やボランティア活動に積極的な参加を促す。
(安間川の清掃活動等)
- ④地域人材の活用を行う。
地域の人材を授業や総合学習等のゲストティーチャー・講師で招き、地域の伝統文化に触れることで「ふるさと」の良さを実感させる。
「地域で学ぶ 地域を学ぶ」活動を通して、そこで生まれ育った自分に自信と誇りを持つことができる。
- ⑤自治会、民生委員との連携
学ぼうふるさと浜松の推進・市民総がかりの取組
地域の中の学校・地域に支えられている学校

(9) **道徳教育の充実**

- ①道徳教育全体計画や年間指導計画の見直し
- ②道徳の参観授業実施で道徳の授業力を向上
- ③道徳の授業を耕しの要とし、各教科、行事、学校の教育活動全体を通じて、

思いやり、規範意識、生命尊重、自尊感情等を育む。また、「命の教育」を充実させ、いじめや暴力行為を撲滅する。

当たり前のことが当たり前でできる力や態度を身につける。(凡事徹底)

④ 道徳の授業を保護者・地域に公開することで、道徳教育の重要性を理解してもらう。

⑤ 道徳の教科化 「特別な教科・道徳」の研修（授業展開・評価方法等）

(10) 発達支援教育の充実

① 確かな子ども理解により、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援を行う。

② 通常学級における支援の必要な生徒への指導の充実

- ・ 個に応じた指導の根拠となる「個別の指導計画」の作成
- ・ 保護者への情報提供と協力依頼
- ・ 周囲の生徒の理解を促す温かな指導

③ 校内就学支援委員会の活性化と個に応じたケース会議の実施

- ・ 保護者の理解に立つ就学指導の実施
- ・ 発達支援教育コーディネーターを中心とした支援体制の充実

(11) 教育公務員としての自覚を持った教職員集団の構築

① 教育公務員としての自覚を持ち、生徒・保護者・地域から信頼される学校づくりを目指してサービスの厳正化を図り、サービス事故防止に努める。
不祥事ゼロ

② 全教職員が安全管理、危機管理への意識を高め、いじめ問題等の未然防止、早期発見・早期解決を図る。

③ 情報管理の徹底と個人情報保護

④ 全教職員が学校経営に対する高い参画意識を持ち、各教育活動の目標や課題を明確にした取組を行う。

(12) 働き方改革の推進

① 学校経営方針や重点目標を明確化し、その目標達成のために真に必要な活動に注力できる学校指導体制を構築し、教育の質の向上を図る。

② 定時退庁ができる日や部活動なしの日を設定する。また、部活動ガイドラインによる取組の移行期間であるため、活動時間や部活動の休日についても検討し、実施していく。

